

ホタルも棲める良い自然プロジェクト

中郡小学校5年生によるホタル放流会（新聞報道）

静岡新聞 2017年12月2日（土） 放流会実施日 2017年12月1日

ホタル舞う地域復活を

中郡小5年生



ホタルの幼虫を池に放つ児童＝浜松市立中郡小

浜松市東区の市立中郡小の5年生が1日、「くじら池」と呼ばれる校内に整備された池にヘイケ
同校周辺ではかつてが、宅地化が進んだ影
ホタルを観察できた 響などでほとんど見ら
（浜松総局・寺田将人）

ホタルの幼虫約300匹を放した。地域の自然環境を学び、ホタルが飛び交う光景を復活させ、地元を大切にすることを目的。

幼虫放ち自然環境学ぶ

児童約90人が信州大理学部藤山静雄名誉教授からホタルの生態系などを学んだ後、6月から校内で育ててきた幼虫を池に放った。幼虫は建設総合コンサルタントのフジヤマ（中区）が企業の社会的責任（CSR）活動の一環で提供した。順調に育てば来年6月ごろに成虫を観察できるという。

夏休み期間中に幼虫を自宅で飼育した渡瀬諒河君（11）は「カワニナなどの餌を取りに行くのが大変だった」と振り返り、橋本彩桜さん（10）は「大きく育ってほしい」と話した。

活動は子供たちが浜松の良さを知り、将来地域を支える人材になることを目指す市の「やらまいか教育推進事業」の一環。

中日新聞 2017年12月6日（水）



ビオトープにホタルの幼虫を放す児童ら＝浜松市東区の中郡小で

校内ビオトープにホタルの幼虫放流
東区・中郡小
浜松市東区の中郡小学校の5年生九十人が1日、ヘイケボタルの幼虫約三百匹を校内のビオトープに放流した。

松島浩二校長が「昔いたホタルを再び見られるように」と発案し、建設コンサルタン会社「フジヤマ」（中区）から卵の提供を受け実施した。児童らはカップに入った幼虫をそっと放し、行方を見守った。放流後は、幼虫が上陸しやすいように水際に草を植えていた。五年の村木勇斗君（こ）は「ザリガニとかを取り除いたけど、ちゃんと成長するか心配」と話した。

ヘイケボタルは来年六月ごろ、成虫となって発光するという。（松島京太）